

◆ 今週のコメント (感染地域、感染経路については推定を含みます。)

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が2例(20歳代男性及び10歳代女性)ありました。いずれも感染地域は国内です。本年の累積報告数は34例となりました。
発生状況の週別推移や血清型別患者数などの詳しい情報については、下記URLを御参照ください。
○腸管出血性大腸菌感染症発生状況(衛生環境研究所ホームページ)
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000068305.html>
- デング熱の報告が1例(40歳代男性)あり、症状は2日以上続く発熱、全身の筋肉痛、骨関節痛、発疹及び血小板減少です。感染地域は国外(スリランカ)で、感染経路は蚊です。本年の累積報告数は6例となりました。
- レジオネラ症(肺炎型)の報告が1例(80歳代男性)ありました。症状は発熱、咳嗽及び肺炎で、感染地域は国内です。本年の累積報告数は21例となりました。
- アメーバ赤痢(腸管アメーバ症)の報告が1例(70歳代女性)あり、症状は下痢です。本年の累積報告数は7例となりました。
- ウイルス性肝炎(B型)の報告が1例(20歳代男性)あり、症状は肝機能異常、黄疸、心窩部痛及び食思不振です。感染地域は国内、感染経路は性的接触です。本年の累積報告数は2例となりました。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症の報告が1例(60歳代男性)ありました。症状は胆管炎及び発熱で、感染経路は以前からの保菌(胆管)です。本年の累積報告数は25例となりました。
- 急性脳炎の報告が1例(80歳代男性)ありました。症状は意識障害で、本年の累積報告数は5例となりました。
- 侵襲性インフルエンザ菌感染症の報告が1例(90歳代女性)あり、症状は発熱、肺炎及び菌血症です。感染地域は国内で、感染経路は飛沫・飛沫核感染です。本年の累積報告数は8例となりました。
- 梅毒の報告が2例(ともに50歳代男性)あり、本年の累積報告数は45例となりました。
- 百日咳の報告が3例(10歳未満及び30歳代男性、10歳代女性)(第33週追加分含む)ありました。いずれも感染地域は国内、感染経路は不明です。本年の累積報告数は86例となりました。

◆ 今週のトピックス: <後天性免疫不全症候群>

本市では、平成31年1月から令和元年6月末までの間、エイズ患者3例、HIV感染者7例の計10例の報告がありました。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- 二類:結核 7例(肺結核 4例, その他結核 1例, 潜在性結核感染者 2例)うち喀痰塗抹陽性 2例
【1月以降の累積報告数 201例(肺結核 88例, その他結核49例, 潜在性結核感染者 64例)うち喀痰塗抹陽性 42例】
- 三類:腸管出血性大腸菌感染症 2例【1月以降の累積報告数 34例】
- 四類:デング熱 1例【1月以降の累積報告数 6例】
- 四類:レジオネラ症 1例【1月以降の累積報告数 21例】
- 五類:アメーバ赤痢 1例【1月以降の累積報告数 7例】
- 五類:ウイルス性肝炎(B型) 1例【1月以降の累積報告数 2例】
- 五類:カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 25例】
- 五類:急性脳炎 1例【1月以降の累積報告数 5例】
- 五類:侵襲性インフルエンザ菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 8例】
- 五類:梅毒 2例【1月以降の累積報告数 45例】
- 五類:百日咳 3例【1月以降の累積報告数 86例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

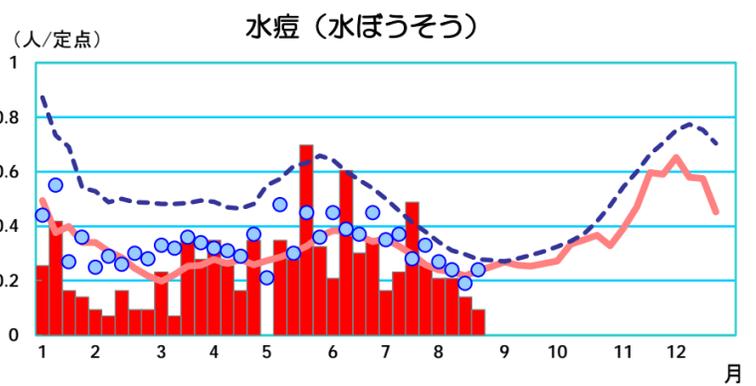
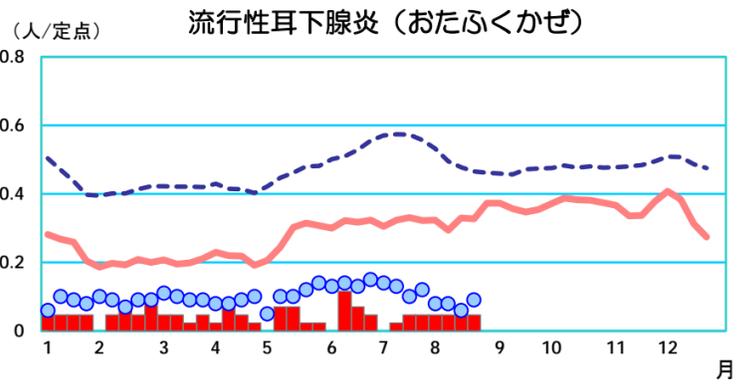
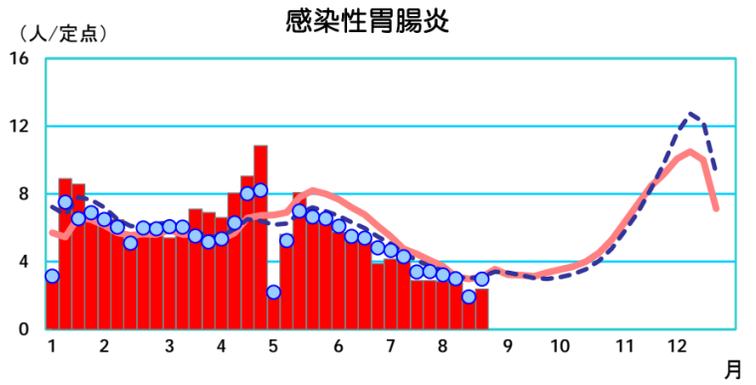
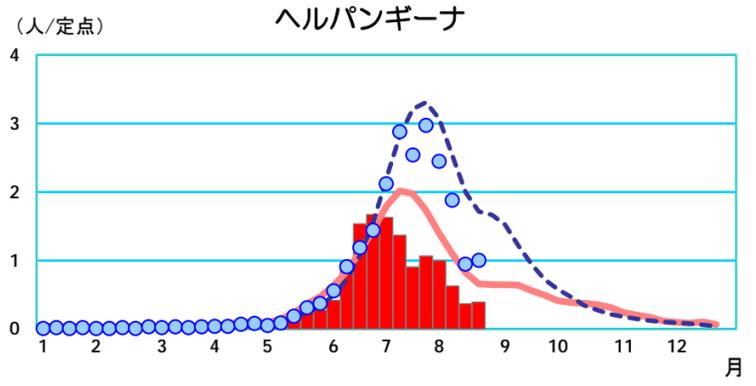
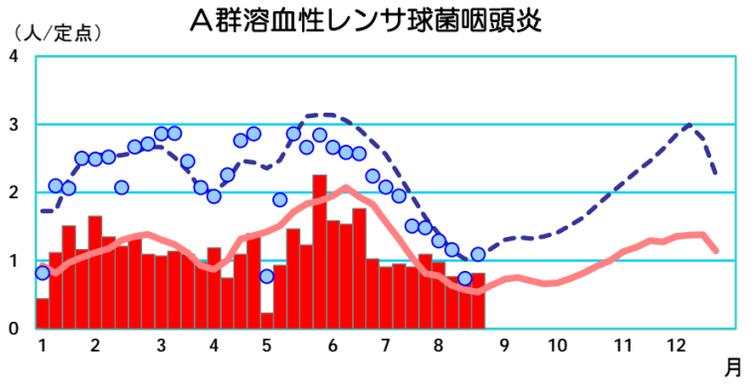
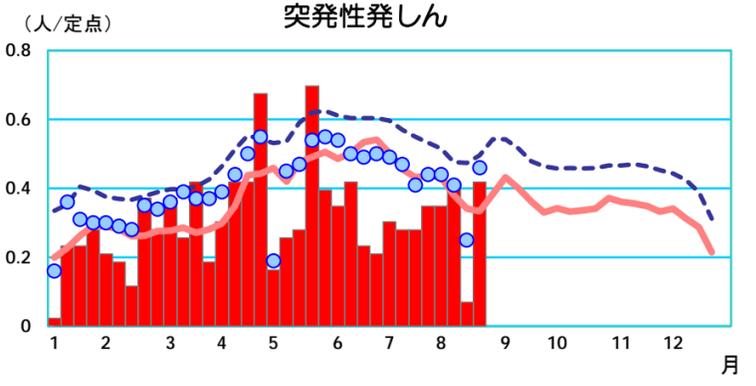
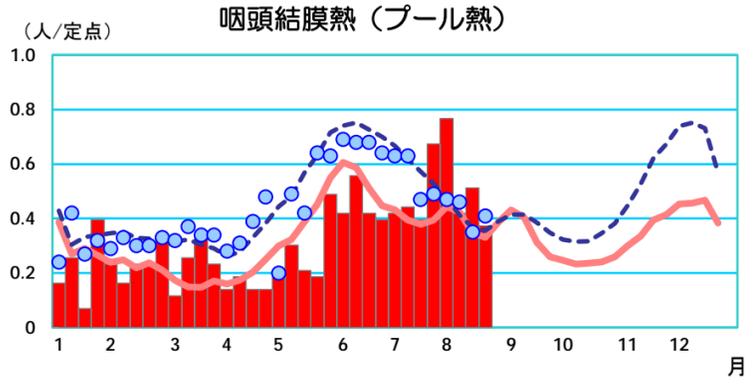
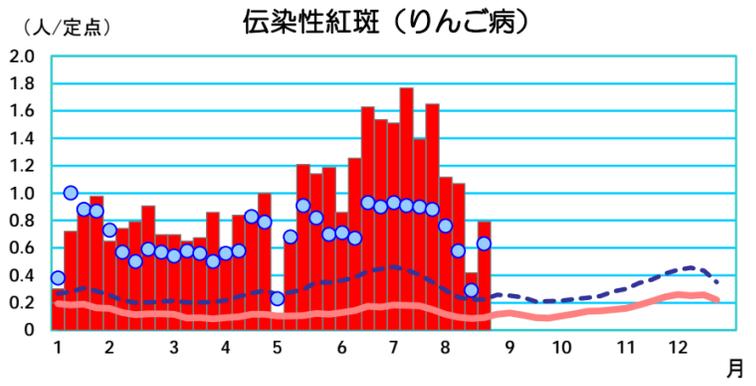
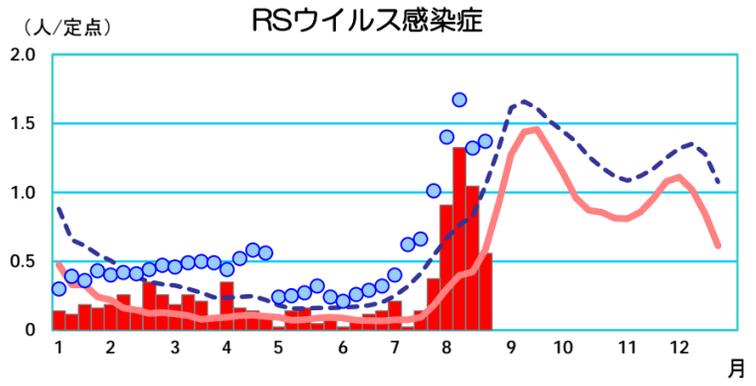
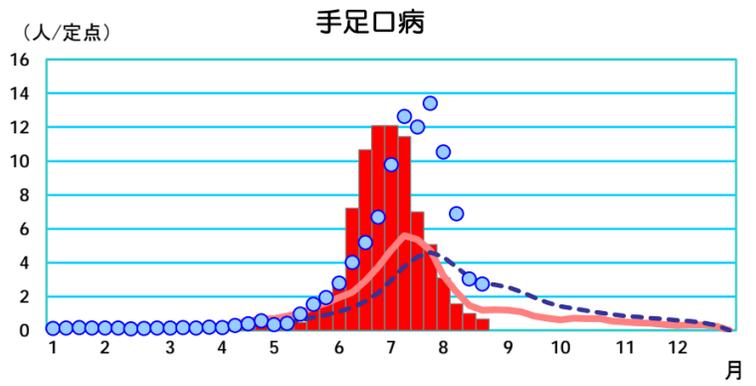
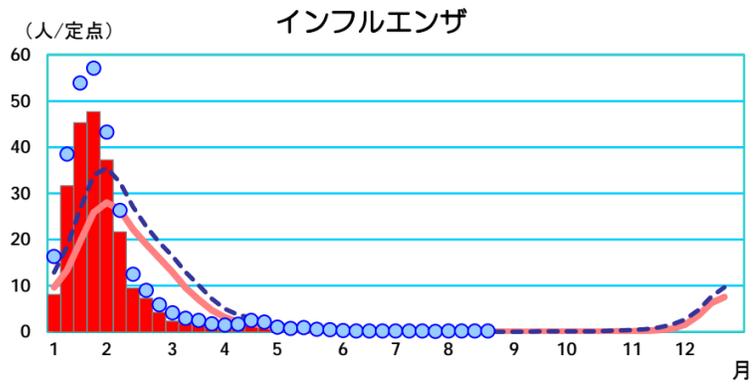
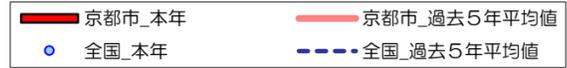
定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.07	5
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	2.37	102
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.81	35
	③ 伝染性紅斑	0.79	34
	④ 手足口病	0.67	29
	⑤ RSウイルス感染症	0.56	24
眼科	流行性角結膜炎	0.40	4

【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <後天性免疫不全症候群>
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注) 京都市のデータは、2019年8月28日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。
* 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（2019年）



第34週(8月19日～8月25日)トピックス: <後天性免疫不全症候群>

京都市では、厚生労働省のエイズ動向委員会の発表に合わせて、半期ごとのエイズ患者・HIV感染者数を公表しています。本市では、平成31年1月から令和元年6月末までの間、エイズ患者* 3例、HIV感染者** 7例の計10例の報告がありました(令和元年8月30日公表 下記URL参照)。

昭和62年以降の累積報告数は349例(AIDS患者 116例(33.2%), HIV感染者233例(66.8%))で、男女別では男性が90%以上と圧倒的に多くなっています(表1)。推定感染経路では、性行為感染が268例で、全体の76.8%を、なかでも同性間の性行為感染が158例と最も多く、全体の45.3%を占めています(図1)。診断時の年齢では、20歳代～30歳代の若年層が約6割を占めています(図2)。

HIVに感染すると、感染初期にウイルス量が急激に増加した後、一旦減り、無症状期(数年～10年程度)を経て、エイズ発症期に至ります。HIVウイルス量の増加に伴い、免疫細胞の数が減り、最終的に免疫不全状態となります。

近年、HIV感染症の薬剤と治療方法の飛躍的な進歩により、「HIV感染＝死」ではなくなりました。継続的な治療は必要ですが、感染後、早期に発見し、適切な治療を行えば、免疫力を落とすことなく、通常の生活が送れるようになりました。さらに、二次感染の予防にも繋がります。京都市では、平日昼間だけでなく、夜間及び土日にも検査を行っています。詳細については、以下のURLを御参照ください。

*エイズ患者 : HIV(ヒト免疫不全ウイルス)に感染し免疫機能が低下したことにより、感染症や悪性腫瘍などの指定疾患を発症した状態と診断されたもの(すでにHIV感染者として報告されているものがエイズを発症する等病状に変化を生じた場合は除く。)

** HIV感染者 : HIVに感染し、無症候性キャリアとして報告されたもの、または何らかの症状はあるがエイズの診断基準を満たさないもの

【エイズ患者・HIV(エイズウイルス)感染者数について(京都市広報資料)】

○<http://www.city.kyoto.lg.jp/menu3/category/36-1-0-0-0-0-0-0-0-0.html>

【京都市のHIV検査について】

○<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000047908.html>

表1 年次別報告数の推移(京都市)

報告年	総数	エイズ患者	HIV感染者	男	女
昭和62年～平成26年	272	87	185	250	22
平成27年	14	6	8	14	0
平成28年	16	5	11	16	0
平成29年	19	9	10	18	1
平成30年	18	6	12	17	1
平成31年1月～令和元年6月	10	3	7	10	0
総計	349	116	233	325	24

図1 京都市の推定感染経路別の報告割合(昭和62年～令和元年6月)

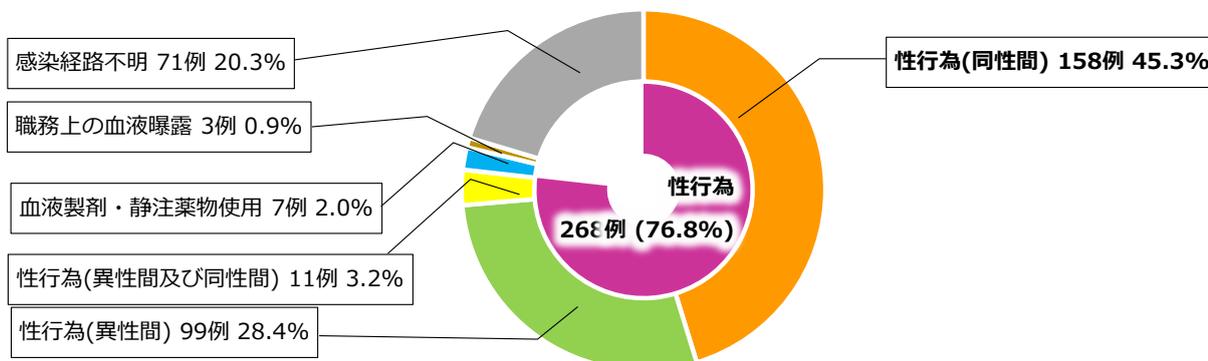
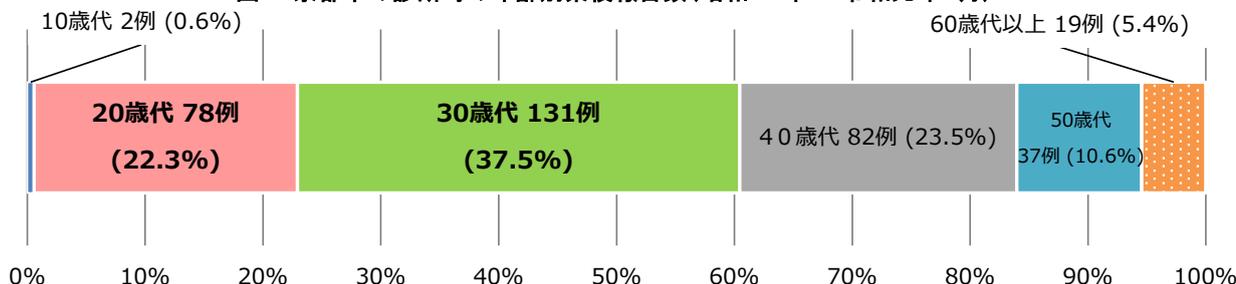


図2 京都市の診断時の年齢別累積報告数(昭和62年～令和元年6月)



T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2019年第34週

疾病,行政区別報告数

2019年8月19日～2019年8月25日

データ入手日:2019年8月28日

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (※3)	感染性胃腸炎 (※4)
男女合計	-	3	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北	-	3	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上京	-	1	-	1	1	-	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	-	3	-	3	17	1	2	11	2	1	-	-	1	-	-	-	-	-
中京	3	2	-	2	6	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	1	1	-	-	10	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	-	6	1	4	-	2	1	-	2	1	1	-	2	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南	1	-	2	1	8	-	5	8	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-
右京	-	2	5	15	6	-	2	5	3	-	-	-	1	-	-	-	-	-
伏見	-	3	6	8	37	-	12	5	8	7	1	-	-	-	-	-	-	-
西京	-	3	2	1	14	1	4	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
京都市計	5	24	16	35	102	4	29	34	18	17	2	-	4	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (※3)	感染性胃腸炎 (※4)
男女合計	-	0.75	-	-	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北	-	0.75	-	-	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上京	-	0.33	-	0.33	0.33	-	-	0.67	0.67	-	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	-	0.75	-	0.75	4.25	0.25	0.50	2.75	0.50	0.25	-	-	1.00	-	-	-	-	-
中京	0.60	0.67	-	0.67	2.00	-	0.67	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	0.33	0.50	-	-	5.00	-	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	-	1.20	0.20	0.80	-	0.40	0.20	-	0.40	0.20	0.20	-	2.00	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	-	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南	0.20	-	0.67	0.33	2.67	-	1.67	2.67	-	2.33	-	-	-	-	-	-	-	-
右京	-	0.40	1.00	3.00	1.20	-	0.40	1.00	0.60	-	-	-	1.00	-	-	-	-	-
伏見	-	0.43	0.86	1.14	5.29	-	1.71	0.71	1.14	1.00	0.14	-	-	-	-	-	-	-
西京	-	0.60	0.40	0.20	2.80	0.20	0.80	0.40	0.20	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-
京都市計	0.07	0.56	0.37	0.81	2.37	0.09	0.67	0.79	0.42	0.40	0.05	-	0.40	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2019年第34週

年齢階級, 疾病別報告数

2019年8月19日～2019年8月25日

データ入手日:2019年8月28日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上	
	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上		
男女合計	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上							
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上					
インフルエンザ(※1)	年齢1	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	1	-	2	
RSウイルス感染症	年齢3	24	6	7	7	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱		16	-	1	4	6	2	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		35	-	1	6	2	5	4	5	1	1	6	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎		102	2	7	18	9	12	11	7	4	5	3	2	11	2	9	-	-	-	-	-	-	
水痘		4	-	-	-	-	1	-	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
手足口病		29	2	1	11	3	2	1	2	3	1	-	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
伝染性紅斑		34	-	1	1	5	8	4	6	4	1	1	1	-	-	2	-	-	-	-	-	-	
突発性発しん		18	2	3	10	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヘルパンギーナ		17	-	4	2	2	3	-	3	1	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性耳下腺炎		2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
流行性角結膜炎	4	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-		
細菌性髄膜炎(※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
感染性胃腸炎(※4)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
男女合計	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.01	-	-	0.01	0.01	-	0.03
RSウイルス感染症	年齢3	0.56	0.14	0.16	0.16	0.05	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱		0.37	-	0.02	0.09	0.14	0.05	0.02	0.05	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.81	-	0.02	0.14	0.05	0.12	0.09	0.12	0.02	0.02	0.14	-	0.02	-	0.07	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎		2.37	0.05	0.16	0.42	0.21	0.28	0.26	0.16	0.09	0.12	0.07	0.05	0.26	0.05	0.21	-	-	-	-	-	
水痘		0.09	-	-	-	-	0.02	-	0.02	0.02	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
手足口病		0.67	0.05	0.02	0.26	0.07	0.05	0.02	0.05	0.07	0.02	-	0.05	-	-	0.02	-	-	-	-	-	
伝染性紅斑		0.79	-	0.02	0.02	0.12	0.19	0.09	0.14	0.09	0.02	0.02	0.02	0.02	-	-	0.05	-	-	-	-	
突発性発しん		0.42	0.05	0.07	0.23	0.05	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヘルパンギーナ		0.40	-	0.09	0.05	0.05	0.07	-	0.07	0.02	-	-	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-	-	
流行性耳下腺炎		0.05	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
流行性角結膜炎	0.40	-	0.10	-	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.10	-	0.10	-	-	-		
細菌性髄膜炎(※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
感染性胃腸炎(※4)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2019年第34週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2019年8月28日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	6	8	12	10	10	5
RSウイルス感染症	6	16	39	58	45	24
咽頭結膜熱	17	29	33	25	22	16
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	39	47	42	37	31	35
感染性胃腸炎	124	124	122	135	73	102
水痘	21	11	9	9	6	4
手足口病	301	218	133	79	43	29
伝染性紅斑	60	71	48	49	18	34
突発性発しん	12	15	15	21	3	18
ヘルパンギーナ	39	46	43	29	16	17
流行性耳下腺炎	2	2	2	2	2	2
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	-	6	7	3	-	4
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合計	627	593	505	457	269	290

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	0.09	0.12	0.17	0.14	0.14	0.07
RSウイルス感染症	0.14	0.37	0.91	1.35	1.05	0.56
咽頭結膜熱	0.40	0.67	0.77	0.58	0.51	0.37
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.91	1.09	0.98	0.86	0.72	0.81
感染性胃腸炎	2.88	2.88	2.84	3.14	1.70	2.37
水痘	0.49	0.26	0.21	0.21	0.14	0.09
手足口病	7.00	5.07	3.09	1.84	1.00	0.67
伝染性紅斑	1.40	1.65	1.12	1.14	0.42	0.79
突発性発しん	0.28	0.35	0.35	0.49	0.07	0.42
ヘルパンギーナ	0.91	1.07	1.00	0.67	0.37	0.40
流行性耳下腺炎	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	-	0.60	0.70	0.30	-	0.40
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合計	14.53	14.18	12.18	10.77	6.17	7.01

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。